

水利部署

【出動の留意事項】

- ・火災現場まで最短経路である。
- ・走行経路に水利がある。
- ・道路工事・交通渋滞等の走行障害がない。
- ・他隊と進入方向が競合しない。
- ・停車位置が後着隊の障害とならない。

【水利部署の留意事項】

- ・例え火煙が見えなくても、現場到着時には水利部署し、放水態勢をとる。
- ・車両はできるだけ限り水平に保ち、車輪止めをする。
- ・道路上等の水利に部署する場合、水利の開口部に住民が転落しないよう措置する。
- ・他隊やホースカーの通行障害とならないようにする。
- ・先着隊の水量に余裕がある場合、後着隊は水利部署にこだわらず、先着隊の水利・車両を効果的に活用する。

【消火栓からの吸水の留意事項】

- ・ポンプへの異物流入を避けるため、吸管を結合する前に、消火栓を開弁して、管内の土石等を取り除く。
- ・吸管の結合を確認する。
- ・消火栓の開閉弁は全開し、水が出ない場合、副弁を確認する。
- ・配管末端の消火栓では、水量が少ないので、放水口数を減らす。
- ・消火栓から吸水中に、他隊から送水を受ける場合、送水された水が水道配管内に逆流する恐れがある。
- ・必要により水道事業者に増圧を要請する。

【消火栓以外の水利からの吸水の留意事項】

- ・吸管は防火水槽の場合は最底部まで入れるが、池等では吸管ストレーナーが泥土に潜る恐れがあるので、適切な深さまでとする。
落差は **7m** 以下とし、ストレーナー部は水面から **30cm** 以上落とし、底から **15cm** 以上浮かす。
- ・水深が浅い場合、せき止めたり、掘り下げたりして水深を確保する。
- ・流れのある水利において、水深が浅い場合、ストレーナーを 流れに逆らう方向 に投入し、ストレーナーの浮き上がりを防止する。
水深がある場合、ストレーナーが川底に達しないように、控え綱で調整する。
- ・水量が少ない河川の場合、後着隊は先着隊より上流で吸水しない。
- ・汚れた水はできるだけ使用しない。
- ・海水を使用した場合、ポンプ等の洗浄をする。